

# 第1 災害の実態

## 1 火災概況

平成26年中の火災は、総出火件数846件、損害額1,590,790千円、死者40人、負傷者120人、焼損棟数708棟、り災世帯数388世帯、建物焼損床面積28,783平方メートル、建物焼損表面積1,578平方メートル、林野焼損面積1,345aとなっている。

### (1) 出火件数

総出火件数は846件で前年に比べ47件(5.3%)減少している。これは1日に約2.32件の割合で火災が発生していることになる。

#### ア 火災種別ごとの出火件数

建物火災が449件で全体の53.1%と最も多く、次に、車両火災(90件)、林野火災(44件)と続いている。

建物火災を種別ごとにみると、一般住宅火災が188件(42.1%)と最も多く、次いで共同住宅火災となっており、住宅からの出火が半数以上を占める。(表1、図1、図2)

表1 火災種別出火件数

区分 種別	平成26年		平成25年		増減 (A-B)
	件数(A)	全体比(%)	件数(B)	全体比(%)	
建物	449	53.1	455	51.0	△6
林野	44	5.2	58	6.5	△14
車両	90	10.6	93	10.4	△3
船舶	1	0.1	3	0.3	0
航空機	0	0.0	0	0.0	△2
その他	262	31.0	284	31.8	△22
合計	846	100.0	893	100.0	△47

図1 全火災種別内訳

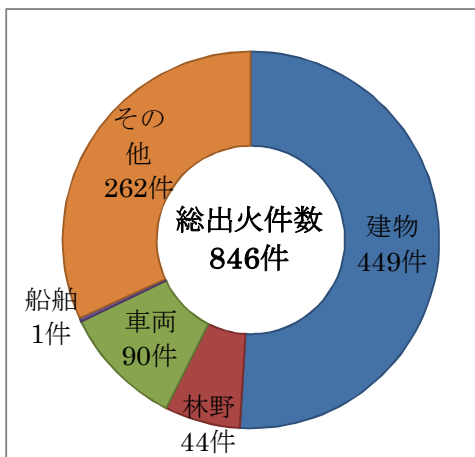
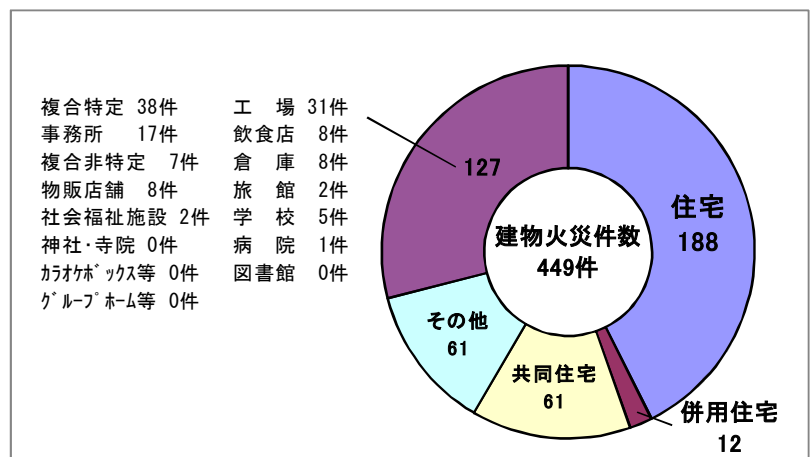


図2 建物火災用途別内訳



## イ 月・四季別出火件数

月別に見ると4月の出火件数が167件（全体比18.7%）で最も多い。（図3）

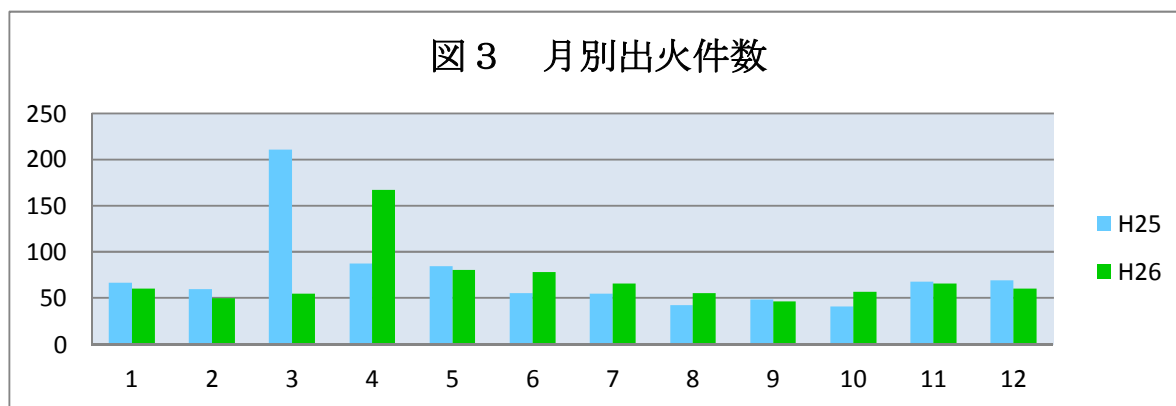


表2 四季別出火件数

	平成26年		平成25年	
	件数	全体比	件数	全体比
春季 (3~5月)	303	35.8	384	43.0
夏季 (6~8月)	201	23.8	154	17.2
秋季 (9~11月)	170	20.1	158	17.7
冬季 (1~2月及び12月)	172	20.3	197	22.1
合計	846	100.0	893	100.0

## (2) 消防機関の火災覚知方法

消防機関の火災覚知方法は、専用電話への通報によるものが529件（62.5%）で最も多い。なお、このうち携帯電話からの通報は288件で半数を超えている。（表3）

表3 火災の覚知方法

（平成26年1月1日から12月31日まで）

	専用電話	加入電話	警察電話	駆付け通報	事後聞知	その他	合計
件数	529	74	29	1	199	14	846
全体比	62.5%	8.7%	3.4%	0.1%	23.5%	1.7%	100.0%